

投光器 学習版

国労東海貨物協議会
2012年7月25日 No.14
発行責任者 鈴木 和巳

新規採用者の皆さん、職場の状況はどうですか？

今回は再度、組合加入について書いてみます。

今年度は東海支社内に11名の高卒・高専卒の新規採用者が配属されました。学費を払って教えてもらう学生時代と、給料を貰って教えてもらう違いを理解して下さいね！

学生時代は勉強をしてもしなくても一定の成績を維持していれば進級・卒業が出来ましたが、社会人となった今は給料を貰う以上、早く一人前になることが求められます。分からないことはそのままにしないで理解するまで教えてもらいましょう。そして一步一步確実に仕事を覚えることが重要です。



今年も貨物労組に強制加入？

職場に配属された新規採用者の話を聞くと、「研修終了後にバスが用意され、それに乗ると貨物労組の先輩が大勢待っている店に連れて行かれ、訳も分からず加入用紙に署名・捺印をした」とのこと。「とても断れる雰囲気ではなかった」との声も聞こえてきます。

果たしてこれで良いのでしょうか？ 新規採用者にすれば誰がどの組合の人かはモチロン、組合のことも仕事の内容も分かっていません。入社後、数年経過した青年からも「あの加入方は酷いよな、職場の状況も分からずに加入だけさせるのはオカシイ」との声が聞かれます。

では、この様な青年の意見をどの様に反映させることが正しいのか考えてみましょう。

国労は次のように考えます。



- ・職場配属までは組合加入をしない、させない。
 - ・職場配属後も仕事を第一に考え一定期間を置き各組合の説明時間を設ける。
 - ・職場の付き合いや組合の教宣物などを参考に組合加入は本人に選ばせる。
- この様な形を取れば青年の不満はなくなると思っています。

組合は労働者の期待に応えるよう最大限の努力を！

これは国労に限らずどの組合にも言えることですが、労働組合を名乗る以上は大きな視点に立ち、正規・非正規を問わず労働者全体のことを考えるべきであり、自分たちさえ良ければということではいけません。

貨物会社には女性を中心に契約社員の方々も働いており、全体の労働条件を引き上げる努力をすることが重要です。



青年の皆さん、その一翼を国労と共に歩みませんか！